

令和2年度 3学期始業式 式辞

みなさん、明けましておめでとうございます。昨年末から寒波が到来し、寒い日々が続きました。そして今日も寒波により一段と冷え込んでいます。そんな中ですが、こうしてみなさんの元気な姿を見て大変うれしく思います。また、新型コロナウイルス感染防止のためマスク着用、手洗い、うがいの習慣が身についたためか、風邪やインフルエンザの流行の兆しがないことにほっとしています。

冬の寒さはこたえますが、晴れた日の夜空を見上げるとオリオン座が見えます。冬は大気が澄んでいるので星がとてもきれいです。みなさんも寒い中ですが、夜空を見てほしいと思います。

昨年12月6日には、日本の探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウの石や砂が入ったカプセルを無事に地球に送り届けました。その後、次に探査する小惑星（地球と火星の間を回る「1998KY26」）に向かって再び旅立ちました。世界に誇れる偉業です。採取したサンプルを調べることで太陽系の進化の歴史や地球の海や生命材料の起源などが解明されると期待されています。

昨年2月に1回目の着陸で地表の試料を採取した後、金属弾を撃ち込んで作ったクレーター付近に2度目の着陸し地中の試料も採取しましたが、2度目の着陸を行うかどうかは意見が分かれたようです。それはリュウグウは予想以上に岩が多く平地がほとんどないので、2度目の着地も成功するとは限らなかったからです。判断を下すにあたっては、リュウグウ到着前に何十回も運用訓練を行いトラブルへの適応力を高めたことやロボットをリュウグウに投下し地形を丹念に調べ上げたことなどを冷静に分析しました。そして2度目の着陸に挑みました。その決断を下したのがJAXAプロジェクトマネージャーの津田雄一さん（45）です。はやぶさ2打ち上げ後に39歳の若さで責任者に起用されました。私は、津田雄一さんは若いけど剛毅木訥な人柄で周りからの信頼を得ていたからだと感じています。

論語（孔子とその弟子たちの言語録）より

子曰、剛毅木訥、近仁。（子曰く、剛毅木訥、仁に近し。）

訳：孔子が言われた。「心身ともに丈夫で、堂々とした態度で、しかも飾り気がなく、口数が少ない。こういう人は仁者に近い。」

解説：たくさん学ぶと心と体が強くなります。自信がつくと雰囲気も堂々としてきます。周りの人が気づいてくれるので、自分から目立とうとすることもなくなります。ぺちゃくちゃとおしゃべりもしません。昔はそんな人が仁者に近かったのです。今は、よくしゃべる、話しじょうずな人も人気です。

3学期は各学年の仕上げの学期です。そんな時こそ、毎時間の授業を先生とみなさんが一緒になってつくっていく学級のムードが大切になってきます。剛毅木訥な面も身につくとさらに充実した3学期になります。健康には特に留意し、学校生活を送ってください。

みなさんの2021年が素晴らしいものとなりますよう心から祈って式辞とします。

令和3年1月8日

岩国市立由宇中学校 校長 秋友高弘